美　術　科　学　習　指　導　案

日　時　令和２年６月15日（月）３校時
対象学級　１年４組　３６人
授業者　前之園　礼央

１　題材（内容のまとまり）

１学年　「作品や美術文化などの鑑賞」（「B 鑑賞」⑴ ア（ｱ）及び〔共通事項〕⑴ア，イ）

２　題材名　「抽象絵画との出会い」

３　題材設定の理由

⑴　題材観

今日の社会では，情報通信技術の革新が加速度的に進み，第５世代移動通信システム（５Ｇ）が我が国においても今年の４月から運用されるなど，今後，多くの情報を同時に異なる場所の複数の人々と共有することができるようになる。その結果，情報の発信や受信において，現実の世界だけはなく，拡張現実も含め，多様な価値観や文化の人々と意思疎通を図る場面が増加し，その複雑さも増すことが予想される。このような社会を生きるこれからの子供たちには，言葉や文字だけでなく形や色彩，質感など，多様な要素を介して外界と関わり，それらが感情にもたらす効果などを活用して，複雑な意図を読み解いたり，新たに自分としての意味や価値を創造したりする力や豊かな感性などが一層求められると考える。

また，日本では古来より，日本庭園の枯山水や十二単のかさね色目のように，自然の雄大さや美しさ，あるいは他者への思いなどを，他の物の形や色彩，質感などになぞらえ，抽象的に見立てて表す文化が育まれてきた。直接的に表現するのではなく見立てて表すことで，見る者が表された美しさや思いなどを，自分のこれまでの経験や価値観などと共鳴させてより深く豊かに感じ取る文化は，今日の美術における抽象表現などとも通ずるものがあると考える。しかし，ともすると絵画の鑑賞において，写実的に描かれた作品に比べて抽象的に表現された作品は，「何が描かれているのか分からない」「どのように見たらいいのか分からない」など，作品に対する見方や感じ方に難解な印象を持つ人が少なからずいるように感じる。けれども，絵画の鑑賞とは，作者の表現の意図を鑑賞者が正確に読み解くものでだけなく，作者が表現しようと心の中に思い描いた思いや考えなどを，鑑賞者が作品の形や色彩などを通して自分なりに感じ取り，自分のこれまでの経験や価値観など基に見立て，自分なりに作品の意味や価値を創造していくものでもある。また，それゆえに心に残る作品との出会いは，時を経て観賞者に再びその作品を観賞したいという思いを抱かせ，実際に再び観賞した時には，以前観賞した時に感じ取ったこととの違いなどから，自分の新たな価値意識などにも気付かせるなど，人生を豊かにしてくれるものであると考える。

本題材は，身近な文化施設である鹿児島市立美術館が所属する抽象絵画作品を，形や色彩，画面の質感などが感情にもたらす効果など，美術科における知識を活用して，主体的に抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げる観賞の学習である。見立ての自由度が高い抽象絵画作品を鑑賞の対象とすることで，生徒は，作品に描かれている形や色彩，画面の質感などの造型的な要素から「喜びや悲しみ」などの感情や「大海原や飛行機」などの自然物や人工物など，様々なものをイメージすることができると考える。また，イメージしたものを手がかりに，「自分が作品全体からどんなことを感じ取ったのか」や，「作者は作品を通してどのようなことを表現したかったのか」など，思考し吟味し，自分なりの考えを創造することができると考える。

⑵　指導観

導入の段階では，生徒に，自分たちの思いや考えを形や色彩が持つイメージなどを生かして表現した作品を相互観賞した学習を振り返らせる。生徒は，〔共通事項〕の内容である形や色彩などが感情にもたらす効果や，造型的な特徴を基に，全体のイメージや作風などで捉えることなど，鑑賞を通して実感的に理解した知識を生かし働かせて，自分や他の生徒が表現したいと心の中に思い描いた思いや考えと，それを表現するための表現方法の工夫とのつながりのよさや，作品の美しさなどを感じ取った学習を思い起こすこととなる。生徒に，学習を通して身に付いた資質・能力を再認識させられるように指導したい。

展開の段階では，まず，生徒に，鹿児島市立美術館が所蔵する抽象絵画作品２点のアートカードを見せ，それぞれの作品に描かれている形や色彩，画面の質感などを造型的な視点を働かせて観賞させる。生徒は，「赤と黒の組み合わせから全体に強い感じがするな」とか「直線で構成された画面が道のように見えるな」など，作品に描かれている形や色彩，画面の質感などを捉え，考えて他に見立てることとなる。次に，生徒に，感じ取ったり考えたりしたことを創造的に組み合わせさせ，自分が作品全体から感じ取ったことや作者が作品を通して表現した思いや考えなどを考えさせる。生徒は，「直線で描かれた道のように見えるものは，作者自身が歩んでいる人生で，赤と黒の組み合わせで描かれた作品全体の強い感じと合わせて，自分の人生を力強く生きていきたいという思いを表しているのではないか」など，見方や考え方を広げ，自分なりの作品の意味や価値を創造することとなる。生徒が造型的な視点を豊かに働かせ，自分の意味や価値を豊かに創造できるように指導したい。また，観賞の途中で，生徒に鹿児島市立美術館の学芸員より，作品を制作している時の作者の状況や作品の表現に影響を与えた時代背景などの話を聞かせる。生徒は，〔共通事項〕の内容や，自分のこれまでの経験や価値観などを基に，思いを巡らせて直感的に観賞することに加え，作者の心情を想像したり作者の立場に立ったりして論理的に観賞することとなる。生徒が見方や感じ方を豊に広げて作品を観賞するためには，自由に観賞することも重要だが，同時に生徒に適切な情報を与えることで，より豊かに見方や感じ方を広げることができると考える。学芸員との連携を密に取り，育むべき資質・能力に根差した適切な情報提供が行えるよう工夫していきたい。さらに，生徒に，最初に自分で観賞して感じ取ったことと，学芸員の話を聞いたり友達と意見を交わしたりして感じ取ったこととを比較させる。生徒は，学芸員の話から得られた情報や，他の生徒の考えを知ることで，最初の鑑賞で感じ取った自分の考えの独創性や他の生徒の意見との共通性などについて考えることで，自分が他者の考えを参考にしながらも独自の価値を見つけ，生み出す活動ができると考える。生徒が自分の感覚のみで作品を捉える観賞のみに終始せず，かつ，評論家などの解説のみで作品を捉える画一的な鑑賞ともならないよう指導の在り方を工夫し，観賞の学習を通して創造活動の喜びを味わわすことができるようにしたい。

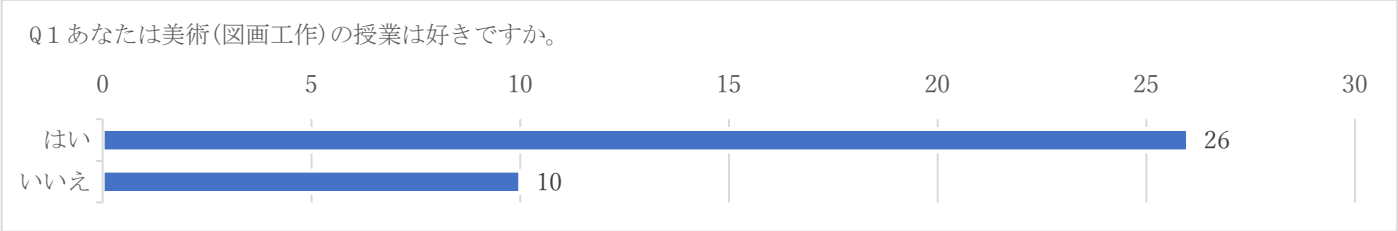
終末の段階では，生徒に学習目標や自己課題を再度意識させて本時の振り返りを行わせる。生徒どうしの作品を鑑賞した前時や，その学習を生かして行った本時の学習を，今後，他の学習や生活の中にどのように生かし働かせるのかについても考えられるよう，市立美術館の他の作品を見せるなど工夫し，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成につなげられるよう指導していきたい。

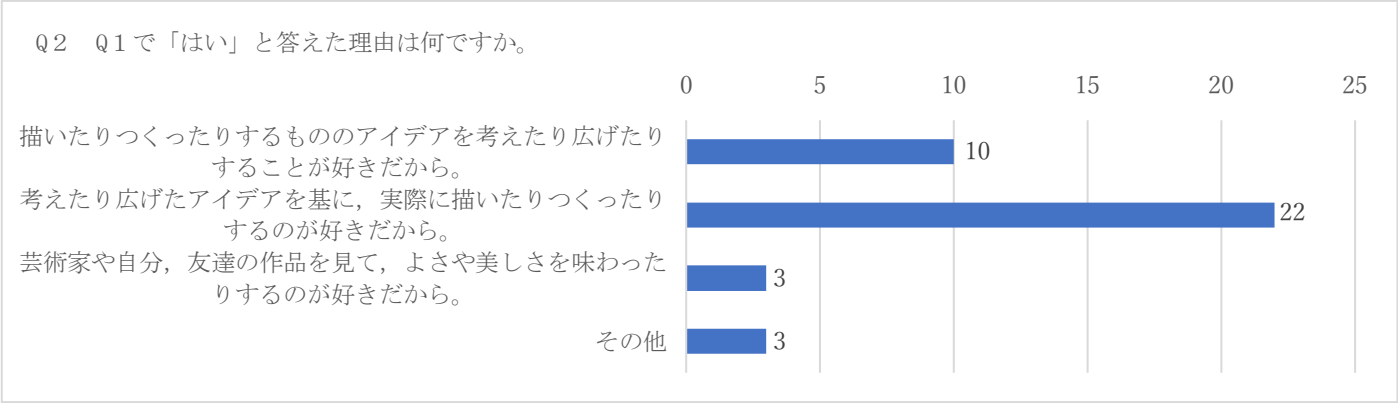
⑶　生徒観

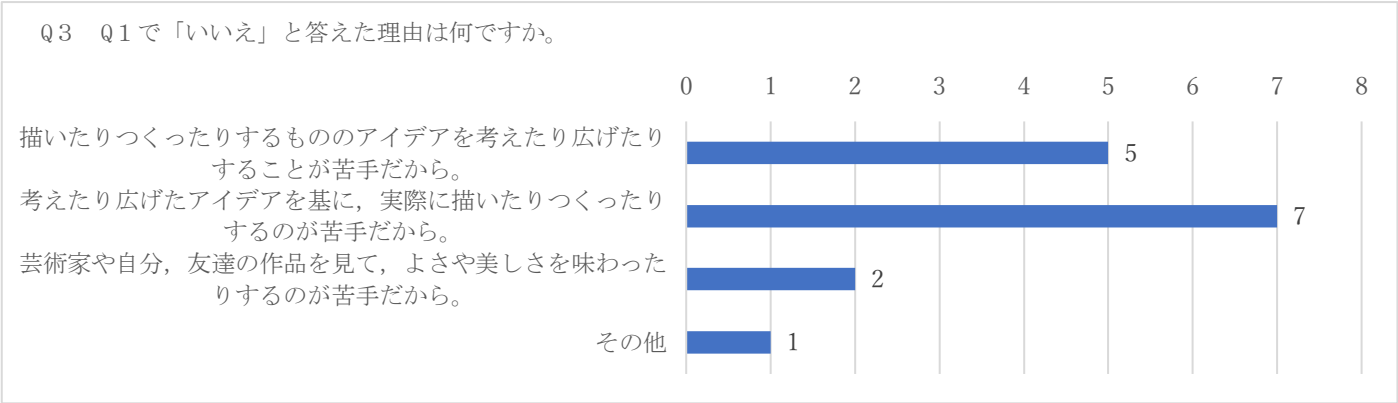
この時期の生徒は，自我の芽生えに伴い，自分の生き方について理想や夢を抱いたり他を思いやり配慮したりすることに憧れを抱く姿が見られる。しかし同時に理想と現実の違いに悩んだり葛藤したりするなど，疾風怒濤の時期といわれる青年期前期特有の心情が現れ始める。このような時期の生徒に形や色彩などが持つイメージなどを用いて自分の内面にある思いや考えを表現させたり，作家によって表現された美術作品を鑑賞させたりする学習を通して，形や色彩などが感情にもたらす効果などの知識を用いて作品を多面的に読み解き・対話し，作品の主題に応じた表現方法の創造的工夫のよさについて思考・吟味し，作品に表したり見方や感じ方を広げたりして価値を見つけ・生み出す力を育むことができると考える。これは，本校が育成を目指す「Society 5.0 で求められる資質・能力」との関連も深いと考える。

４　生徒の実態

調 査 日　令和２年４月 20 日
調査対象　１年４組　36 人







Ｑ４　美術(図画工作)の授業はどんな力が身に付くと思いますか。

知識及び技能に関係すると考える力		思考力，判断力，表現力等に関係すると考える力		学びに向かう力，人間性等に関係する力	
考えたものを描く・つくる力	9	想像を広げる力	10	豊かな心を育てる力	2
生活に役立つものをつくる力	2	作品やもののよさを見付ける力	9	心情がわかる力	1
		アイデアを生み出す力・発想力	8	自信を持つ力	1
		美しい思考力・考えを広げる力	7	人・友達のよさを見付ける力	3
		発想したものを表現する力	4	実行力・実現する力	2
		他のよさを取り入れる力	2	人間としての楽しみを広げる力	1
		物事をよりよいものにする力	2	美を求める力	1
		様々な視点でものを見る力	1		
		創造力	1		

本学級の生徒は，明るく素直で，表現や観賞の活動にも意欲的に取り組む姿が多く見られ，７割近い生徒が美術（図画工作）の授業が好きと答えている。しかし，多くの生徒が描いたりつくったりといった技能に関する活動をその理由にあげている。また，好きでないと答えている生徒も同様の傾向がみられ，ともすると単に「本物みたいに描けたか否か」などが学習の充足感や効力感を判断する基準になっている可能性が考えられる。一方で，多く生徒は授業で身に付けられる力として，思考力，判断力，表現力等に関する力を身に付けることができると考えている。本題材においても，生徒に，形や色彩の性質や感情にもたらす効果などへの実感的な理解を基盤に作品を観賞させて造形的なよさや美しさなどを感じ取らせ，作者の心情や表現の意図と工

夫などについて考えさせたい。そのことを通して，生徒に自分の見方や感じ方を広げさせて自分としての新しい意味や価値をつくりだす創造活動の喜びを実感させるなどして，学校目標の具現化に向けて美術科で育成する資質・能力を学習の主体である生徒と共有し，育成すべき資質・能力の調和の取れた伸長を図りたい。

5　題材及び本時の指導目標

⑴　知識及び技能

形や色彩，画面の質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解する。（〔共通事項〕）

⑵　思考力，判断力，表現力等

抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げる。（「Ｂ観賞」⑴）

⑶　学びに向かう力，人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい，自他の見方や感じ方のよさなどに気付き楽しく抽象絵画の見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

本校美術科のグランドデザインとのつながり

⑴　本校美術科のグランドデザインにおける【何ができるようになるか】

ア　知識及び技能

他者とよりよく協働するなどして，表したい主題を実現したり，作品などのよさや美しさを感じ取ったりするための知識・技能を身に付ける。

イ　思考力，判断力，表現力等

美術の創造活動の喜びを味わうための知識・技能を活用し，自分としての意味や価値をつくりだすために必要な力を養う。

ウ　学びに向かう力，人間性等

自分や他者の表現や見方や感じ方などを尊重し，よさへの理解を深め，豊かな感性や情操を育み，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる態度を養う。

⑵　題材及び本時の指導目標

ア　知識及び技能

形や色彩，画面の質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解する。

イ　思考力，判断力，表現力等

抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げる。

ウ　学びに向かう力，人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい，自他の見方や感じ方のよさなどに気付き楽しく抽象絵画の見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6　題材間の関連及び題材計画（「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の相互の関連）

領域	題　材　名	時数	主　な　学　習　活　動 （主たる学習過程）	双方に働く中心となる考え
「Ａ表現」 ア(ｱ)	「偶然の美を生かして」 ～多様な表現方法の効果を味わおう～	１ ～ ３	モダンテクニックによるアートカードを制作することを通して，多様な表現方法を理解し，その技法を身に付けるとともに，偶然に生まれる形や色彩の美しさや，それらが感情にもたらすイメージなどに対する実感的な理解を深める。	作者が表したい主題に応じて，形や

	「思いや考えを形や色で表そう」 ～表現の効果を生かしてつくろう～	1 ～ 4	アートカードを組み合わせて誘発したイメージなどを基に主題を生み出し，心に思い浮かんだ思いや考えを表現するための構想を練り，多様な表現方法の特性を生かし主題に応じた工夫をして絵に表す。	色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを生かし，表現方法を工夫する。
		1	完成した作品を他の生徒に説明したり感想を伝えたりするなどして相互に観賞し，主題に応じ工夫された表現方法などのよさや美しさに対する見方や感じ方を広げる。	
「Ｂ観賞」 ア(ｱ) （本題材） （本時）	「抽象絵画との出会い」	1	前時に学習した見方や感じ方を生かしたり，学芸員の話を聞いたりして，鹿児島市立美術館にある抽象絵画作品を観賞し，作者が表したい主題に応じた表現方法の工夫などのよさや美しさに対する見方や感じ方を広げる。	

7　評価規準

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
1	知　形や色彩，画面の質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 （C:形や色彩など，造形の要素へ着目させ，それらが感情にもたらす効果などへの意識を高めさせる。）	鑑　抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げている。 （C:表現に用いられている形や色彩などに着目させ，それらと作者の表現の意図と工夫との関連を考えさせる。）	態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に美術作品や美術文化などに見方や感じ方を広げる観賞活動に取り組もうとしている。 （C:作者の心情や表現の意図と工夫などに着目させ，それらのよさや美しさに気付く視点を持たせる。）

※　（C:　）はＢに達しない生徒への手立て

8　本校の研究との関連

⑴　「Society5.0 で求められる資質・能力」を育成するための指導について（１年次緒論 P12 ）

本題材では，生徒が直前に行なった制作した作品を相互に鑑賞する学習で身に付けた，作者の心情や表現の意図と，表現方法の工夫とのつながりのよさや美しさを感じ取る資質・能力を生かし働かせ，市立美術館の抽象絵画作品を，作者が作品を描いた時の心情や，用いた形や色彩などに込めた表現の意図などを，形や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果などといった美術科における知識を活用して読み解く。また，読み解く活動を進める中で，自己との対話とともに，他の生徒と対話する活動を設定するなどし，「読み解き・対話する活動」を充実させたい。

また，授業では，作品を最初に自分なりに鑑賞した後，鹿児島市立美術館の学芸員から生徒に，作品を制作している時の作者の状況や作品の表現に影響を与えた時代背景などの話を聞かせ，生徒は，作者の心情を想像したり作者の立場に立ったりして作品を観賞する。自分の経験や価値観などを基にした観賞で獲得した感じ取ったことや考えたことに加え，新たな客観的な情報を手掛かりにして，より論理的かつ合理的に作品を見つめ直し，感じ取ったり考えたりする活動を設定するなどして「思考・吟味する活動」を充実させたい。

さらに，始めに作品を観賞して感じ取ったり考えたりしたことと，学芸員の話の話を聞いたり，他の生徒と意見を交わしたりして感じ取ったり考えたりしたこととを比較させる。生徒は，自分の感じ取ったことや考えたことの変化を見出したり，変わらない作品のイメージに気付いたりする。このことにより，本題材の学習を通した抽象絵画作品への見方や感じ方の広がりを，生徒が自分なりに実感することができると考える。また，身近な文化施設である鹿児島市立美術館やその収蔵作品についての関心を高めさせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育む活動を設定するなどして，「価値を見つけ・生み出す活動」を充実させたい。

⑵　カリキュラム・デザインの工夫（１年次緒論 P17）

本題材で育成を目指す資質・能力は，前学年の小学校第６学年の学習で身に付けた資質・能力を基盤に育まれ，次学年の中学校第２学年の学習で育成を目指す資質・能力に接続するものとしており，内容の系統性とともに，育成を目指す資質・能力のつながりを意識した年間指導計画の構成，配列となるようカリキュラムデザインの工夫を行った。

学年	領域	題材名	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
小学校第６学年	「Ｂ鑑賞」ア	「西洋絵画のおもしろさを」	絵画に込められた作者の思いを感じ取りながら，自分のこれから描いたり，つくったりする作品についてイメージを広げ，自分なりの表現の課題をもつことができる。	かかれている物や全体の色調などじっくりと見る中で，かかれた背景などについて考えたり，友達と話し合ったりして作者の表現の意図や作品のよさを自分なりに感じ取ることができる。	ピカソの作品「ゲルニカ」を通して西洋の絵画を鑑賞する楽しさを味わい，絵画鑑賞への意欲をもつことができる。
中学校第１学年	「Ｂ鑑賞」ア（ｱ）	「抽象絵画との出会い」	形や色彩，画面の質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解する。	抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げる	美術の創造活動の喜びを味わい，自他の見方や感じ方のよさなどに気付き楽しく抽象絵画の見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
中学校第２学年	「Ｂ鑑賞」ア（ｱ）	「抽象彫刻を味わおう」	形や量感，質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解する。	抽象彫刻の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え，美意識を高め，作品に対する見方や感じ方を深める。	美術の創造活動の喜びを味わい，自他の見方感じ方のよさなどへの気づきを深め，主体的に抽象彫刻の見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※　小学校第６学年の題材名及び題材で育む資質・能力等は鹿児島大学教育学部附属小学校の年間指導計画による。

⑶　内外リソース活用の工夫（１年次緒論 P20）

本題材では，鹿児島市立美術館から学芸員をゲストティーチャーとして招き，生徒に，作品を制作している時の作者の状況や作品の表現に影響を与えた時代背景などの話をしていただく。生徒は，学芸員からの専門的な話を聞くことで，作者の心情や表現の意図と工夫などの作品のよさや美しさに対する見方や感じ方を一層豊かに広げることができると考える。

また，生徒が作品を観賞して感じ取ったり考えたりしたことに対し，学芸員から感想をもらうことで，自分の見方や感じ方のよさに気付いたり，作品を観賞する楽しさや鑑賞への意欲を一層味わすことが期待される。

さらに，学芸員という職業に関心を持つとともに，文化施設の役割や意義を実感する生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育むことを目指したい。

９　本時の実際（１／１）

⑴　指導目標

ア　知識及び技能

形や色彩，画面の質感などが楽しさや寂しさなど，感情にもたらす効果や，造形的な要素を基に，全体のイメージや作風で捉えることを理解する。（〔共通事項〕）

イ　思考力，判断力，表現力等

抽象絵画の表現のよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と表現方法の工夫などについて考え，作品に対する見方や感じ方を広げる。（「Ｂ観賞」⑴）

ウ　学びに向かう力，人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい，自他の見方や感じ方のよさなどに気付き楽しく抽象絵画の見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

⑵　準備するもの

ア　教師

教科書，美術資料，振り返りシート，ワークシート，アートカード

イ　生徒

教科書，美術資料，アートワークス，アートアルバム，筆記用具

⑶　本時の実際

過程	時間	形態	活　動　内　容	指導・援助の留意点	評　価	備考・準備
導入	２分	全体	1　前時を振り返る。	・　生徒どうしで作品を鑑賞し合い，作者の心情と表現方法の工夫とのつながりなどへの見方や感じ方を広げた学習を思い出させる。		生徒作品 ワークシート① 卓上提示装置
	１分	全体	2　学習目標を知る。 市立美術館の抽象絵画を味わい，見方や感じ方を広げよう。	・　生徒に音読をさせ，学習目標への意識を高めさせる。		短冊黒板
	３分	個	3　自己課題を考える。	・　生徒に前時の学習とのつながりを意識させ，学習目標をよりよく達成するための自己課題を考えさせる。	知　鑑 態鑑	振り返りシート
展開	１２分	個	4　前時の学びを生かし市立美術館の抽象絵画を鑑賞する。（読み解き対話する活動・思考・吟味する活動Ⅰ）	・　生徒に作者の心情などと表現方法の工夫とのつながりなどへ着目させ，共通事項を基に鑑賞させる。	知　鑑 態鑑	アートカード ワークシート②
	10 分	全体	5　学芸員の話を聞く。	・　学芸員から生徒がアートカード見るだけでは感じ取りづらい作者や作品に関する情報など，見方や感じ方の広がりにつながる話をしてもらう。	知　鑑 態鑑	卓上提示装置
	８分	個	6　学芸員の話を踏まえて作品を再度鑑賞し，感じたことや考えたことなどをまとめる。（読み解き対話する活動・思考・吟味する活動Ⅱ）	・　生徒に新たに感じた作者の心情などと表現方法の工夫などへの見方や感じ方を広げさせる。	知　鑑 態鑑	
	５分	ペア 全体	7　全体で考えたことなどを共有する。（価値を見つけ・生み出す活動Ⅰ）	・　生徒に共通事項との関連を意識させ，作者の心情などと表現方法の工夫のよさなどや，学芸員の話を聞いたことによる見方や感じ方の広がりなどを共有させる。	知　鑑 態鑑	
	５分	全体	8　学芸員の話を聞く。	・　学芸員から生徒の学びのよさなどについて話してもらう。	知　鑑 態鑑	
終末	３分	個	9　学習の振り返りをする。（価値を見つけ・生み出す活動Ⅱ）	・　生徒に自己課題を再度意識させ，振り返らせる。	知　鑑 態鑑	
	１分	全体	10　教師の話を聞く。	・　生徒に身の回りにある作品を鑑賞する意欲を持たせる。		